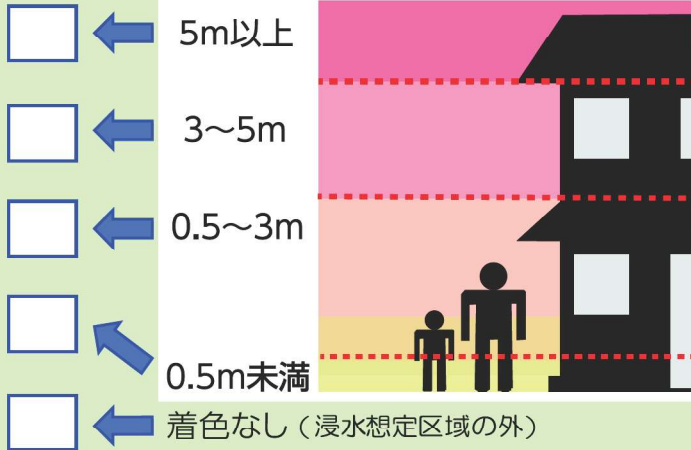


ハザードマップの見方

1 洪水ハザードマップについて

あなたの家のある場所は？
-ハザードマップでチェック-

(1) どの程度まで水が浸かる可能性があるか？



あなたの家がある場所はどの色ですか？
当てはまる□に○を入れてみましょう。
※上の図の家の高さなどはあくまで目安です。

このハザードマップでは、**想定し得る最大規模の降雨**で石狩川や空知川などが氾濫した場合に発生する洪水によって浸水することが想定される区域等を表しています。

なぜ、想定し得る最大規模の降雨なの？

全国各地で、異常ともいえるような集中豪雨等によって甚大な災害が頻発していたことを受けて、平成27年に法改正が行われ、市町村が作成するハザードマップについては、それまでの「計画規模降雨」（平均して100～150年に1度程度の割合で発生する洪水流量に係る降雨）ではなく、「想定最大規模降雨」（平均して1000年に1度程度の割合）があった場合において浸水が想定される区域を示すことと定められています。

(2) 右のいずれかの範囲の中にあり、洪水によって家屋が倒壊等する可能性があるか？

はい いいえ

- 家屋の流出・倒壊をもたらすような洪水時の河岸浸食が発生するおそれがある範囲
- 家屋の流出・倒壊をもたらすような洪水の氾濫流が発生するおそれがある範囲

2 土砂災害に係る表示について（12・13 ページに該当地区あり）

土砂災害（がけ崩れ）については、次の2種類の区域を色分けして示しています。

①土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

土砂災害のおそれのある区域です。

②土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害警戒区域のうち、建物が破壊される可能性のある区域で、特に危険な区域です。

3 ため池ハザードマップについて（23～24ページ参照）

滝川市内には大小合わせて50以上のため池（農業用水を確保するために水を貯え取水するための人工の池）がありますが、全国的に豪雨や地震などを引き金としてため池の水が周辺地域等に流れ出すといった例もあり、市内の代表的な4つのため池について、想定される被害を色分けして示しています。